

会議録（要旨）

件 名	平成２９年度 第３回亀岡市行政改革推進委員会		
日 時	平成３０年２月２６日（月）		
	午後３時～４時３０分	場 所	市役所３階３０２・３０３会議室
出席委員	１０名：牛田眞／大嶋雅子／小川泉／桂喜久子／木藤伸一郎／坂本信雄 佐藤裕見子／多胡麻衣／松本圭史／森下明美		
欠席委員	４名：木戸庸介／服部公子／前平貞二／松尾和美		
事務局 出席者	６名：企画管理部長／企画調整課長／企画調整課副課長 他		
傍聴者数	１名		
次 第	１ 開会 ２ 議事 （１）平成２９年度収納率向上対策に係る取組状況（１２月末）について （２）平成２９年度行財政改革実施計画の取組状況（１２月末）について （３）平成３０年度行財政改革実施計画（案）の策定について ３ その他 （１）今後のスケジュールについて ４ 閉会		

１ 開 会（企画調整課副課長 進行）

只今より平成２９年度第３回亀岡市行政改革推進委員会を開催する。

本日、木戸委員、服部委員、前平委員、松尾委員については欠席の連絡をいただいているが、過半数の出席をいただいているので本委員会は成立している旨、御報告申し上げます。

会長挨拶

３月市議会で、来年度の予算について議論されるところである。国も国会で予算審議をしているが、国会報道がオリンピックの放送にかき消されている状況がある。

京都学園大学に関することであるが、平成３０年３月１７日に日本電産（株）の永守重信会長が新理事長に就任される。

２ 議 事

（１）平成２９年度収納率向上対策に係る取組状況（１２月末）について

資料１－１、１－２

事務局 《資料に沿って事務局から説明》

(2) 平成29年度行財政改革実施計画の取組状況(12月末)について

資料2-1、2-2、2-3

事務局 ≪資料に沿って事務局から説明≫

A 委員

コンビニで納付できるようになったことで、収納率は増加したのか。

事務局(企画管理部長)

納期内納付は増えている。収納率にも影響はしていると思うが、分析が難しい。

A 委員

今後も便利になるような取り組みを進めていただきたい。

副会長

「No.45 自治基本条例の研究」の関係であるが、第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～がスタートし、7年が経過した。その間に人口減少もあり、状況が変わってきている。前期基本計画の5年間の終了した時点で中間評価を行っているのか。また、そういった評価結果を踏まえた上で自治基本条例の制定を検討しているのか。夢ビジョンの中間評価と自治基本条例の関連性を教えていただきたい。

事務局(企画調整課長)

第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～は、平成23年から平成32年度までの計画である。平成23年から平成27年度までを前期基本計画、平成28年度から平成32年度までを後期基本計画の期間としている。前期基本計画の総括は、総合計画審議会で行ったところである。

前期基本計画と自治基本条例の関連性であるが、基本計画は5年計画で進めているため、前期基本計画の総括を行う前に、後期基本計画を作っている。自治基本条例の研究は後期基本計画で初めて盛り込んだものである。

自治基本条例は、一般的に理念条例であるため、先進自治体に効果等についての調査を行った。条例をつくったからといって、すぐにまちが変わるものではない。また、自治基本条例を制定した市でも5年ごとに内容の見直しをされている現状もあった。結果として、まとめられるところまでは結びつかなかった。他市の状況を分析しながら亀岡市に必要なかどうかも含めて研究・検討していくため、期間を延ばさせていただいた。

事務局（企画調整課副課長）

総合計画と自治基本条例は、性質に違いがある。総合計画は、まちづくりに対する具体的な計画であり、自治基本条例はそれを行うための理念、ルールを示したものである。

市では市民憲章やまちづくり協働推進指針、議会基本条例がある中で、自治基本条例を新たに作る必要があるかどうかも含めて研究している。

B 委員

調べてみると、各地で条例の内容や条例名にも違いがある。市としてどのようにまとめていくのか、どのようなコンセプトで臨むのか、その作業が大切である。

C 委員

取組結果が非常に良くなっている。「△」のものについても方向性が考えられていた。前回の委員会で、目標値を上げていく話があった。次の段階では、目標値を上げていってほしい。

事務局（企画調整課副課長）

後程説明させていただくが、平成30年度の実施計画からは、今までよりも高く、算出方法も統一化した目標にする。過去3カ年で一番高い収納率を超えるときに「◎」としている。

A 委員

「No.46 京都・亀岡ふるさと力向上寄附金（ふるさと納税）による収入拡大」は、すばらしい取り組みである。財政難である今だからこそ、寄附金をどのように使っていくかを考えていくことが大切である。

事務局（企画管理部長）

参考資料として当初予算の資料をお配りしているが、本日の本会議で市長から予算編成方針等を説明させていただいた。その中で、ふるさと納税については、寄附金を活用したまちづくりを進めていくことを述べている。

また、寄附いただくときに、寄附金の使い道を指定することができる。今年度で特色的だったものが、明智光秀像を建立する事業である。それぞれに指定していただき、まちの将来を考えながら寄附金を有効に活用していきたい。また議会でも充分説明させていただく。

B 委員

ふるさと納税の寄附額は増えているが、コストはどうなっているのか。その比率を教えてください。

事務局（企画管理部長）

寄附額の3割を返礼品として、亀岡の特産品等をお返ししている。楽天やふるさとチョイス、ふるぽ等と契約しているところであるが、寄附額の1割強を手数料として支払っている。3割が返礼品、1割強が手数料、約5割が市の財源として残る。

B 委員

他の自治体も、そのような割合になっているのか。

事務局（企画管理部長）

そうでないところもあるが、ほとんどの自治体は寄附額の約3割を返礼品にしている。

亀岡の特産品を返礼品としているため、寄附金の3割を商品代としてまちの皆さんに還元できる。寄附額の約半分は財源として残るので、有効に活用していきたい。

D 委員

ふるさと納税の使い道を明智光秀像を建立する事業等から選ぶことができるが、その事業はどのように決められているのか。

事務局（企画管理部長）

明智光秀像を建立する事業は、観光の一助とすること及び市民に明智光秀を顕彰していくため、今年度の寄附項目として事業にしたものである。このような事業をしたいというものを項目としてつくり、寄附を呼びかけている。

D 委員

寄附金を計画的に、大切に使っていただきたい。

事務局（企画管理部長）

いただいた寄附金は、一旦基金に入れて指定いただいた目的に応じて使わせていただいている。条例で定める目的以外には利用できない。PRがうまくできていないが、有効活用させていただいている。

B 委員

多くの場合は、市外に住んでいる方がふるさと納税をしているため、その方たちの思いを反映するという意味では良い方法だと考えている。

事務局（企画管理部長）

寄附金の使い道をPRするとともに説明しながら、寄附金を活用していきたい。

ふるさと納税は、本来、市外の方から寄附いただくものであるが、明智光秀像を建立する事業については、故郷に誇りを持ち、まちの歴史を認識することを担っているため、市民からも寄附を募っている。ただし、市民への返礼品の送付は行っておらず、銘板のみとなっている。

（３）平成３０年度行財政改革実施計画（案）の策定について

資料３－１、３－２

事務局　　《資料に沿って事務局から説明》

会長

自治基本条例については、平成１６年、１７年頃から自治体の組織や協働についての基本的な枠組みを作ろうとする動きが高まり、各地で条例が制定された。

京都府下で自治基本条例を制定している市はあるのか。

事務局（企画調整課副課長）

京都府下では、京丹後市と福知山市が制定している。最近になってから自治基本条例の研究を始め、制定した市は少ない。

会長

今から自治基本条例の制定について考えるよりは、行財政改革のあり方や総合計画との調整等について、来年度に委員会で議論してはどうか。そもそも行政改革とは何かについて考える勉強会を始めてはどうかと考えている。

E 委員

取組結果の「◎」「○」「△」の表記について、数値で結果が出る項目は分かりやすく良いが、数値で出ない項目もある。

数値で出ない項目を「◎」「○」「△」で表記することは難しいが、例えば「No.27 観光プロモーション事業」は、観光キャンペーンを実施したことによる観光客数の増減等、数値を出すことが可能ではないか。

事務局

「No.2 7 観光プロモーション事業」については、半期ごとに目標数値を出すことが難しいため半期ごとの数値目標は出していないが、観光入込客数の年間目標を数値で出している。

ただし、数値で結果を出せない取組項目もあり、「◎」「○」「△」の表記が難しいという現状がある。

A 委員

「No.2 6 バス交通の見直し」について、保津町では、1時間に1本しかバスが来ない地域がある。高齢になったため運転免許証を返納される方が多くなり、買い物に行くのに困っておられる。試験的に、東別院町で送迎のボランティアをされているように、保津町でも送迎のボランティアを好意で行われている方がいる。バス交通の見直しだけでなく、ボランティアをされている方や、取り組みを行っている地域に補助金を出して支援する等、仕組みを考えてもらいたい。

B 委員

今の御指摘は大切なことである。行政でどのように取り組むかを議論していかないと、高齢化率が上がっている今、どこでも同じ悩みを抱えている。

C 委員

高齢になり歩行が困難だが、自転車に乗っている方がいる。しかし、市内を自転車で走るにはスペースが十分でない道路がある。市内を自転車で安全に走れるように考えてもらいたい。

会長

平成30年度実施計画（素案）の4ページから6ページに総括表があるが、今、議論している「事業の見直し」は4項目しかない。今後、ここに項目を足して推進していくことも検討してはどうだろうか。例えば、馬堀駅に来ている観光客の定着や観光における標識表示（複数の言語表示）等、項目を足していくことも重要ではないかと考えている。

それでは、平成30年度実施計画については、御了承いただけますか。

《委員了承》

F 委員

「No.4 5 自治基本条例の研究」について、今から何年も時間をかけて研究し結論を出すのではなく、今年度中に結論を出してはどうか。

事務局（企画調整課副課長）

平成30年度に結論を出していきたいと考えている。自治基本条例の研究については、現在、自治基本条例を制定している先進地である6市にアンケート調査をして分析しているところである。

事務局（企画管理部長）

先ほどのバス交通については、亀岡市地域公共交通会議を設置し、地域住民の生活に必要なバスを、どうすれば確保できるのかということを協議している。その中で、バス路線を設置できない場所では、現在、東別院町で実施いただいているが、住民の方々が自分たちで車を確保して、地域の送迎ボランティア活動をされている。そのことに対して市から補助している。

バスを運行させるには、経費がかかる。コミュニティバスの場合、一番利用が多い路線でも運賃で戻ってくるのは経費の30パーセントほどであり、その他は税金で運行している。バスの路線変更については、試験的に運行し、検証しながら進めていきたい。

また、道路については、側道にラインを引いて安全を確保しているところである。自転車の安全確保は、今後の課題だと考えている。道路環境が良くなるように考えていきたい。

会長

他に質問等がなければ、以上をもって本日の協議事項は終了する。

事務局（企画調整課副課長）

会長におかれましては、円滑な議事進行をいただきありがとうございました。

本日、委員から提供いただいた資料があり配布している。委員から資料の説明をお願いする。

B 委員 《資料に沿って説明》

社会的指標は、概念的にどこからどこまでの統計をとるのかといった議論があるが、ここでは5つの分野について、なおかつ、それぞれ5つのデータ・統計を集めて比較検証した。

したがって、5つの統計を集めたことについては、見方によってそれぞれ議論があることは承知している。

亀岡市のグラフを見ると、「賑わい・交流」と「安全・安心」が高い数値となっている。その他の3つの項目はそうではない。まちづくりの観点からは5つ全てのバランスがとれていることが良いのだが、多くの自治体は同じような結果となっている。比較的、福知山市がバランスが良くなっている。

最後に、府内14市（宮津市除く）を比較したグラフがある。ばらつきはあるが、ほとんど似ている。特徴がなさすぎるということが現在の自治体の姿ではないかと申し上げたい。

G 委員

南丹市にある京都中部総合医療センター（旧公立南丹病院）を利用されている方の約6～7割が亀岡市内の方である。このことから市内の医療機関が少ないとされている。このような影響もあって「健康・福祉」のデータの数値は低くなっているのではないかな。

B 委員

その影響を受けていると考えられる。

同じような見方をすると、亀岡市は京都市に隣接していることから「賑わい・交流」でのプラス効果がでているのではないかなと思う。そういった意味でどの統計を使うかという議論も多い。

3 その他

（1）今後のスケジュールについて

資料 4

事務局 ≪資料に沿って事務局から説明≫

事務局（企画調整課副課長）

本日、各委員の皆さまには、大変熱心に御議論いただきありがとうございました。それでは、閉会にあたりまして、企画管理部長より一言申し上げます。

4 閉 会

事務局（企画管理部長）

委員の皆さまには、熱心に御議論いただき感謝申し上げます。委員からは亀岡市の状況が分かる資料をいただいた。皆様からいただいた御意見、御要望を反映できるように頑張ってみりたい。

昨日、盛り上がっていた平昌オリンピックが閉会した。これからパラリンピックが始まるので期待したい。その後、平成32年は東京オリンピックの年である。市でも平成32年に京都スタジアム（仮称）がオープン予定である。

本日、議会が開会され、市長から施政方針、予算編成方針の説明があった。市長は、「夢をかたちに かたちを現実に」新たな亀岡の実現へ、市民、団体、事業者、行政が一体となり、知恵を出し合い、協力してスタジアムを核としたまちづくりを推進していくことを申し立てた。人口減少や高齢化についての課題、そして、京都学園大学の太秦キャンパス開設に伴う亀岡キャンパスの学生数減少の現状もある。そのような中で、その時代にあった行財政改革を推進していく必要がある。

本日は長時間ありがとうございました。

以 上